

数日來の寒波に「悴む」1月26日、本校応接室にて昨年3月から12月までの小田高 TALK 月間賞の賞品授与式が行われました。

校長先生からは「日常の生活の中に韻文の世界を取り入れることは、もう一つ別の世界を創り出せることです。万葉集、古今和歌集は即物的な美の世界を、新古今集は自分のイメージの美の世界を描いています。君たちはそうしたイメージの中で創りだした言葉の世界を持っており、素晴らしいことだと思います。」と講評をいただき、一人ひとりに月間賞となる黛さんからのサイン本の授与が行われました。各受賞者からのメッセージを受賞句とともにご紹介いたします。



3月【月間賞】 春の風君の笑顔運びける (くま)

このような賞を頂きありがとうございます。この句は春の優しく暖かい風が桜等の木々の葉を散らす中、自分のイメージの中にいる彼女が幻想的に微笑む姿を表現しようと思いました。

4月【月間賞】 ブランコとをんなふたりと朧月 (のすけ)

そのころ受験と部活とをどうしようかと思っていた頃、なにも考えずに作った句です。たまたま良い月の晩、田舎の公園をイメージして作りました。

5月【月間賞】 古井戸の水面輝く若葉風 (湯河原)

爽やかな涼しげな句を作りたいと思って作りました。俳句の世界は普段触れ合う機会が少なく最初は作り方がわからなかったけれど今回賞に選んでいただいて自分の上達を感じられ、嬉しかったです。

6月【月間賞】 肩並べ影踏み歩く夏木立 (秋山真央)

ゆっくりとした時間をイメージして作りました。このような賞がいただけるとは思ってもみなかったのですがとても嬉しいです。これを機に更に色々な俳句を詠み俳句の世界を知ってみたいです。

7、8月【月間賞】 夕焼に染まる背中を追いかけて (林檎)

自分の好きな歌詞を基にして作った一句です。自分の気持ちを短い言葉で言い表すのが難しかったけど楽しかった！

9月【月間賞】 鎮遠の鐘が鳴るなり水は澄む (川西和琴)

日本史の授業で先生が紹介して下さった「鎮遠の鐘」を句に詠み込みました。実際に音をきいたことはなかったのでいつか鳴らしてみたいと思います。

10月【月間賞】 十三夜ギターのコードはシーマイナー (大矢裕介)

偶然にも十三夜の日が自分の誕生日だったというのが嬉しく作った句です。

11月【月間賞】 冬の音を傘に響かせ初時雨 (嶋菜々花)

傘に落ちる雨の音が好きで作りました。時雨のイメージとは違った楽しさを感じてほしいと思

います。今回、このような賞をいただけたことを嬉しく思います。これからもいろいろな俳句作品の良さを感じていき、より良い俳句を作れるようにしたいです。

12月【月間賞】短日や作り途中の砂の城 （古賀瑞菜）

小さい頃砂の城造りに夢中になっている間に徐々に日が暮れてきてまだ完成していない砂の城を置いて帰らなければならないもどかしい気持ちを思い出して書きました。嬉しいです。